



▲久慈線最後のトンネル工事、切牛トンネルが1月26日貫通。三陸縦貫鉄道はトンネルが多いのが特徴。久慈線久慈-宮古間71.1キロメートルには43カ所39キロメートル(55%)のトンネルがあり、この貫通で工事がヤマを越した。

三陸縦貫鉄道は昭和55年度全線開通に向けて工事が進められている。

この鉄道は、青森県の八戸から本県の沿岸を經由して宮城県の小牛田までを結ぶ延長357.8キロメートルに及ぶもの。このうち八戸、久慈(一部)、宮古、山田、盛(一部)、大船渡、気仙沼、石巻の8線はすでに営業をしている。

現在工事が行われているのは、本県内の盛線吉浜-釜石間(15キロメートル)と久慈線普代-田老間(32.2キロメートル)の合わせて約47キロメートル分。

盛線吉浜-釜石間は46年6月に工事に着手、すでに路盤工事が完了し、軌道工事も釜石-唐丹間が終わっている。久慈線普代-田老間は46年9月に工事に着手し、険しい北上山地の丘陵地帯に向かっての工事が進められ、ことし1月26日には久慈線最後のトンネル切牛トンネル(下閉伊郡田野畑村)が貫通。9月には路盤工事も完了の予定。

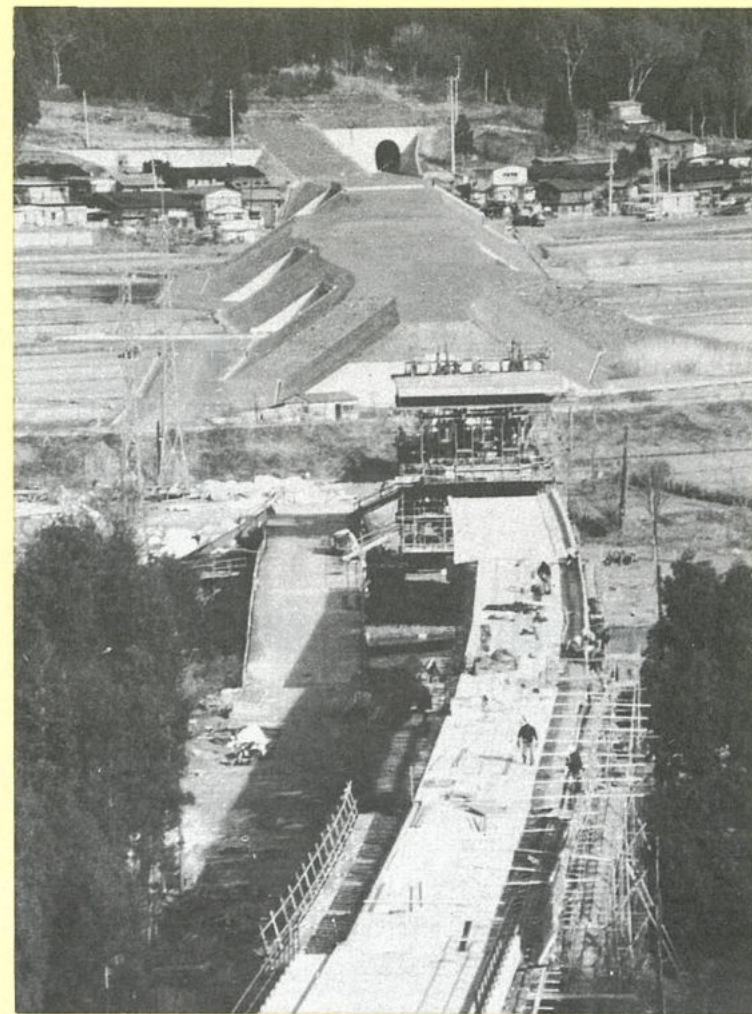
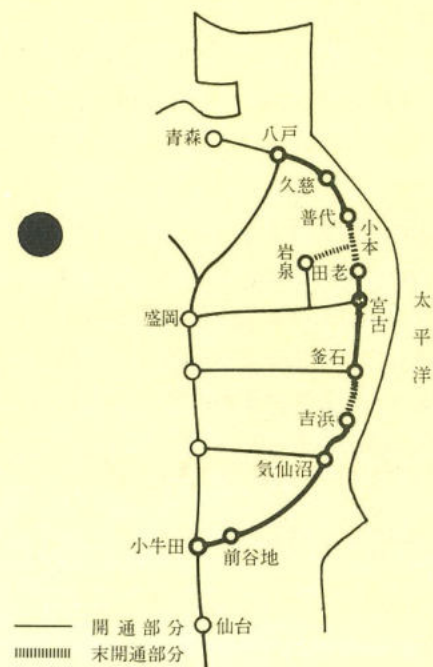
52年度末までの工事進捗率(工事費投資額)は、盛線が78%、久慈線が87%まで進む予定となっている。53年度もこの2線の建設費として政府予算が大幅に配分されることが期待され、全線完成へ大きく前進する。

三陸縦貫鉄道の全通は沿岸地区の人々の長い間の夢。産業開発、観光開発に果たす役割は大きく、地域住民の寄せる期待も日々高まっている。

▼盛線は全線路盤工事が終わり、釜石駅付近は軌道も敷設されている。いつでも釜石駅とつなげる形だが、駅構内の工事が残っている。



### 三陸縦貫鉄道概要図



▲久慈線はトンネルと橋りょうの連続。小本駅の近くには世界最初の鉄道斜張橋を目指す小本川橋りょうの建設が進められている。

▼美しい三陸の海を望みながら走る縦貫鉄道。全線開通も間近。



▲50年7月、久慈線久慈-普代間が大きな期待を乗せて部分開通。